

交易条件指数と交易損失

— 原材料価格の上昇から巨額の所得が海外へ流出 —

わが国は、原油、金属、穀物など原材料の多くを輸入しており、原材料価格の高騰により輸入価格が大幅に上昇しています。一方、輸出価格があまり上昇していないことから、企業の収益が圧迫されています。そこで、今回は、交易条件指数について整理してみました。

1. 交易条件指数とは

交易条件指数とは、輸入した原材料価格の上昇による支払増加分をどれだけ輸出価格に転嫁できたかをみる指標です。交易条件指数は輸出デフレーターを輸入デフレーターで割るか、又は輸出価格指数を輸入価格指数で割って算出します。原材料価格の上昇による支払増加分を輸出価格に転嫁できていないときには、輸入デフレーターが輸出デフレーターよりも上昇するため、交易条件指数が低下します。

交易条件指数を算出する際の輸出入デフレーターは内閣府の国民経済計算で、あるいは、輸出入価格指数は日本銀行が各々公表しています。

$$\text{交易条件指数} = \frac{\text{輸出デフレーター}}{\text{輸入デフレーター}} \times 100$$
$$\text{又は} = \frac{\text{輸出価格指数}}{\text{輸入価格指数}} \times 100$$

2. 低下する交易条件指数

交易条件指数の推移をみると、2002年1～3月期以降低下傾向を辿り、2008年4～6月期は68.2（2000年＝100）と94年以降で過去

最低となっています。（図1参照）交易条件指数の低下は、原油などの原材料価格の上昇により輸入デフレーターが急速に上昇しているにもかかわらず、グローバルな厳しい価格競争が続いているために輸出デフレーターが上昇しにくくなっていることによるものです。

3. 交易条件指数の低下で交易損失が拡大

交易条件指数が低下すると、輸出により海外から得られる収入より、輸入による海外への支払いが多くなり、結果として、わが国の所得が海外へ流出したことになります。このような所得流出は「**交易損失**」といわれています。これに対し、交易条件指数が改善し、輸出により海外から得られる収入が、輸入による海外への支払いよりも多くなり、結果として、海外からわが国へ所得が流入する場合には「**交易利得**」が生じます。

内閣府の国民経済計算によると、交易損失は2002年4～6月期以降拡大を続け、2005年7～9月期以降は年率換算で10兆円を超え、2008年4～6月期には28兆円と過去最大にのぼっています。（図2参照）

交易損失が拡大することは、企業収益が伸び悩み、雇用者所得が抑えられるなど、国内での購買力が失われ国内需要が減少する要因となり、わが国の経済に与える悪影響は大きいといえます。原油価格が2008年7月をピークに反落していることから、交易損失は今後縮小する可能性があります。わが国は省資源型の設備への更新、新分野の開拓といった原油など資源高への耐久力を高める対策が求められています。

図1. 交易条件指数の推移

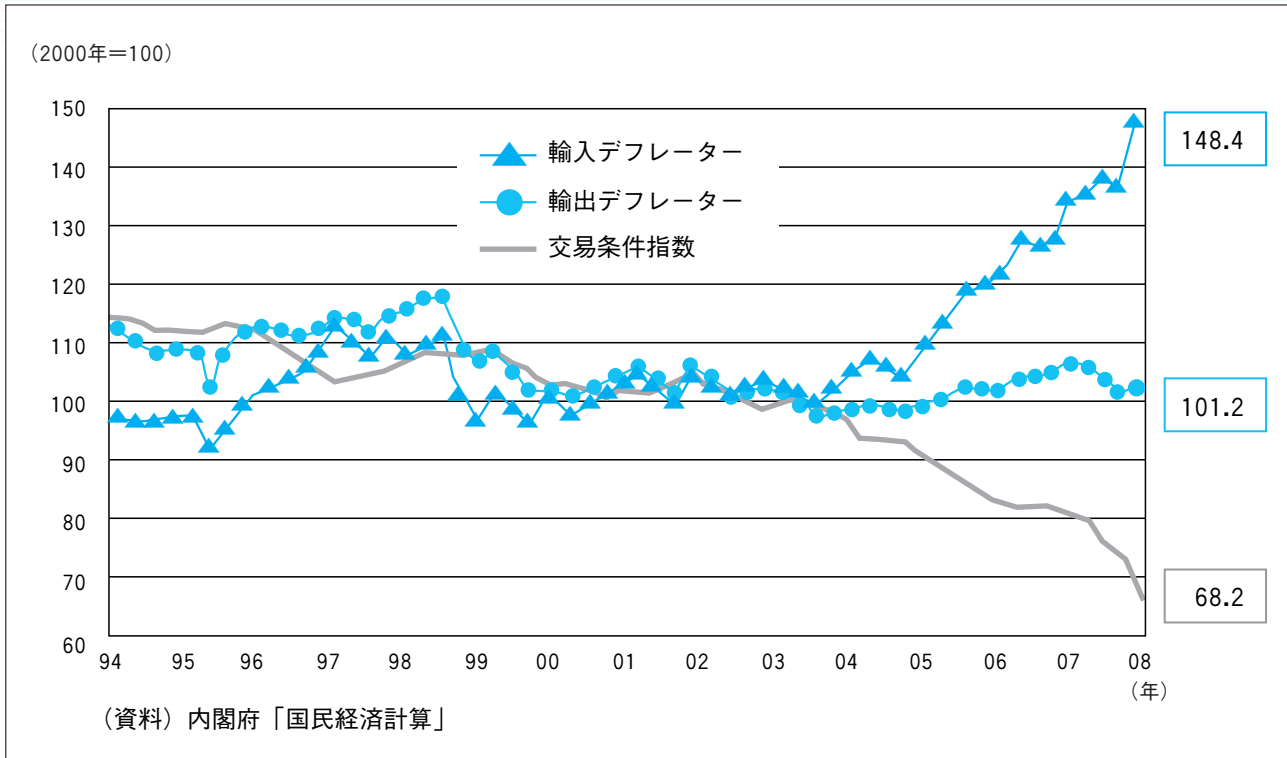


図2. 交易利得及び交易損失の推移

